

## 寄付の方法

①学生向けユースサポートハウスでは、サポーター募集のページで寄付を募っています。

学生向けユースサポートハウス コングラント と検索

※ページではカード決済も可能です。※ページではマンスリーサポーターも募っています。

<https://congrant.com/project/cmtwork/17358>



②運営団体である、NPO法人コミュニティワーク研究実践センターの口座への振込みも可能です。

振り込みをする際は、氏名と学生向けユースサポートハウスと振込み用紙に記載して下さい。

### 【銀行の場合】

振込先：北海道銀行 札幌駅北口支店

口座番号：普通預金 1162635

口座名：特定非営利活動法人コミュニティワーク研究実践センター  
理事長 穴澤義晴

### 【郵便局の場合】

口座番号：02700-8-101363

加入者名：コミュニティワーク研究実践センター



## NPO 法人コミュニティワーク研究実践センターとは？

「困りごとをひとごとではなくみんなのこへ」を活動の理念として、孤立しがちな、住まい・仕事・暮らしの中で、場とつながり（コミュニティ）が生まれ、誰もが幸せに暮らせる社会を目指し活動しています。「誰もが大切になる」を合言葉に社会制度や地域資源、人々の力を借りながらともに助け合いのできる、暮らしの創造（コミュニティワーク）をすすめています。

### 【主な事業内容】

- 生活困窮者支援自立支援制度の基づく各種事業の運営
- 新たな住宅セーフティネット制度に基づく居住支援法人の活動
- 生活支援付き住宅の運営 ■市民活動プラザ星園の管理運営
- 児童会館での子育て・親育て支援

### 【実施主体】

## NPO 法人コミュニティワーク研究実践センター

【学生向けユースサポートハウス サポーター募集事務局】

札幌市東区北 22 条東 8 丁目 2-20 サンステージ N22E8 1F 事務所

電話：080-3265-8832 ※担当者直通 担当：湯澤・平内

Email：sumaisoudan@cmtwork.net HP：https://cmtwork.net/

—学生向けユースサポートハウスは、赤い羽根福祉基金の助成を受け実施しています。—

# 学生向けユースサポートハウス サポーター募集

## ～住まいが支える学びの継続～

公的支援が届かない、大学生や専門学校生等に対し、事業に賛同頂き、寄付のお願いをしています。



## はじめに

コロナ禍終了前の 2022 年 11 月から、大学生・専門学校生・高校生が家族関係（家族から DV 等）や家庭環境（ストーブが使えない、洗濯機が使えないなどの貧困等）を背景にした、緊急避難の相談があり、受け入れをしてきました。2024 年 2 月から学校に通い続けること、卒業後の暮らしが安定するまでの期間サポートするため、学生向けのシェルターを設置（2 部屋・利用期間、概ね 3 ヶ月）し、活動を開始。**2024 年 2 月～2026 年 3 月末までの間に、67 名の学生から相談があり、21 名の学生をシェルターで受け入れしてきましたが、満床のことも多く、十分な受け入れが出来ていません。**

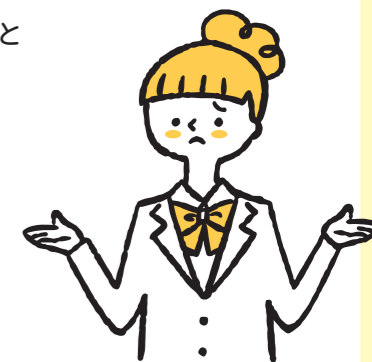
大学生や専門学校生などへの支援体制は、まだまだ不十分です。特に生活保護など公的なサポートが届きづらい現状があります。また、奨学金も出席日数や成績に左右されるため、利用できるとは限りません。

生活環境が減茶苦茶な状況化では、学校に通うことはもちろん、勉強をすることも難しくなります。

シェルター退所に向けたアパートを借りるための入居費用や家具家電を揃えるお金などを「アルバイト」をしながら貯めるしかありません。アパートを借りるにしても、家族に頼ることが難しいため、保証会社の審査やアパートのオーナー審査で落ちることも多く、住まいの確保も容易ではありません。そのため、シェルターの利用期間が長期化しています。シェルターの設置だけでは不十分ことから、東川下団地を 2 部屋借り上げ、学校卒業まで暮らすことのできる、男性用と女性用の学生向けのシェアハウス（各定員 2 名）を開設しました。

2024 年度が 26 名の学生から相談があり、2025 年度は 41 名の学生から相談がありました。

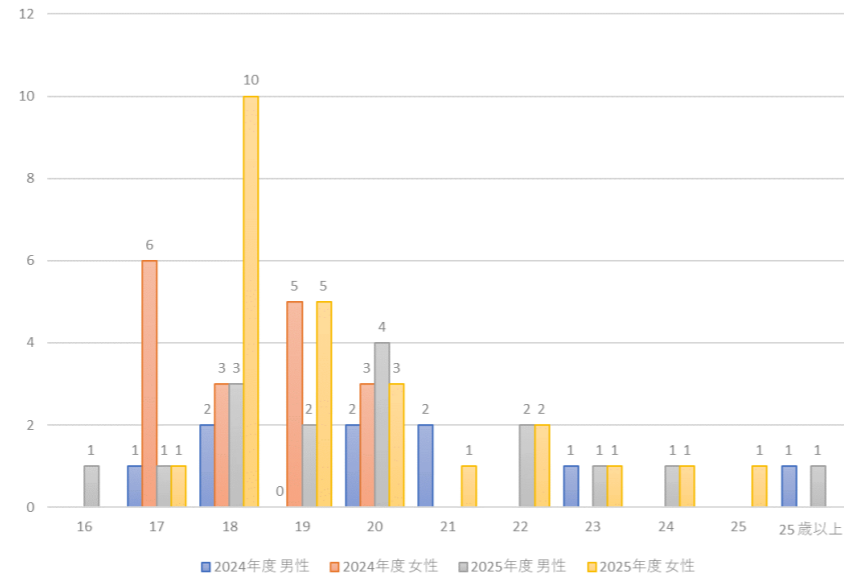
今後さらに多くの相談が来るのが予想されます。この取り組みに共感し、力を貸していただける方を募集しています。寄付というかたちで、学生の未来と一緒に支えていきませんか？



## どうして、大学生や 専門学校生になってから 利用するのか？

大学生や専門学校生になり、突然、家族から暴力や暴言を受け始めたという学生は、私たちが、出会った学生の中には、一人もいませんでした。問題は子どもの頃から発生しており、中学や高校の先生に相談している学生がほとんどでした。私たちの実施した学校関係者向けヒアリングでは、児童相談所への通報は学校としても躊躇することもあるという声もあり、学校と児童相談所との「距離」は、まだ遠いのかもかもしれません。

[相談に来た学生の性別と年代]



## 様々なニーズに対応できることが大切

学生向けユースサポートハウスでは、様々な学生のニーズを受け止めてきた中で、シェルターを利用する学生には、大きく3つのニーズがあることがわかってきました。

パターン1：その日だけ利用したい学生

パターン2：シェルターと自宅を、行き来する学生

パターン3：完全に自宅を離れて、自立を目指す学生

パターン1やパターン2の利用が2025年度は非常に多かったです。親から暴力を受けそうになった時だけ利用したい、1ヵ月程度利用しながら、自宅とシェルターを行き来しながら家族の変容を伺いながら自宅に戻るなど、様々なニーズがあることがわかりました。

※一般的な、シェルターはパターン1・2のような利用はできません。



### 【利用したKさんからの声】

激動の半年でした。命の危険を覚えて家出を決意したのはいいものの、それを支えてくれる方々がいなければどれも上手く事態は動きませんでした。

札幌市ホームレス相談支援センターJOINを紹介されたのち、コミュニティワーク研究実践センターに繋いでいただき学生向けユースサポートハウスを利用させていただきました。

思えばここでの生活がなければ今後生きる上での準備はできませんでした。住居はもちろん、食品や交通費の支援もいただきながら、行政の手続きについての助言もい

ただいて生活基盤を無事整えることができました。

周囲の人の手助けあってこそ頼ることができたので、自分一人で悩まないことが大切だと痛感しました。人生の恩人としてこれからも応援していきたいと思えます。本当にありがとうございました。もしこの文章を見てくれていて、少しでも誰かを頼りたいと思っている人がいるならば迷わず相談してください。あなたの命を守れるのはあなたの行動があってこそです。私のように救われる方が少しでも増えますように。

もしこの文章を見てくれていて、少しでも誰かを頼りたいと思っ

ている人がいるならば迷わず相談してください。あなたの命を守れるのはあなたの行動があってこそです。私のように救われる方が少しでも増えますように。



## 寄付が必要な理由

学業を続けるためには、学校までの交通費、食費、衣類、そして新生活の準備など、さまざまな側面からの支援が求められています。切迫した状況の中、避難をしてもらうため、何も持たずに、着の身着のまま避難してくる学生が非常に多いです。しかしながら、大学生や専門学校生は生活保護の活用が出来ず、現場としても厳しい状況にあります。シェルターを出た後の新生活を準備するための費用についても課題となっています。

奨学金を受けいている学生やアルバイトをしている学生もいますが学業との兼ね合いからそれほどの収入にはなりません。また、これまでの虐待体験から、精神的に不安定になりやすい方もいるため、すぐにアルバイトをするのは難しい方もいます。



## 寄付の使い道

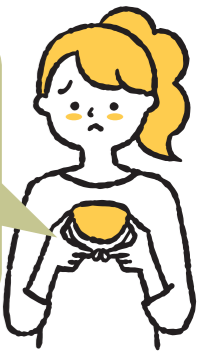
シェルター利用  
期間中の食材費



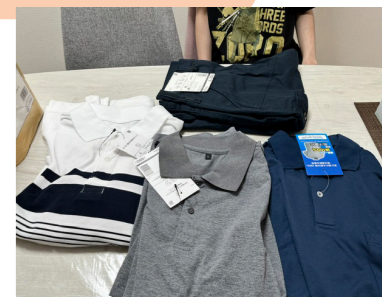
学校までの交通費  
(実費分・定期代の支給)  
学校での食事代



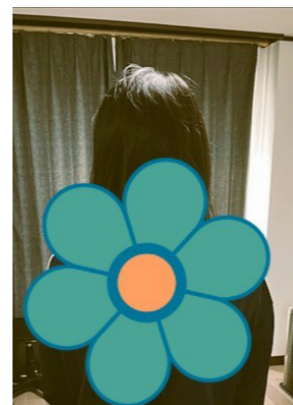
シェルター退所に向け学生が住まいを確保するための費用や家具家電を購入するための費用



衣類や下着、生理用品、化粧品等を購入する費用  
(女性が多いため)



美容室や床屋に行き、身なりを整えるための購入費用



シェルターや学生向けシェアハウスの家賃・光熱水費



その他、支援を行う上で必要な費用

